

生物多様性活動認証制度の拡大による 地域の生物多様性向上の推進

活動地域  徳島県

ひろげる助成

3年目

実践

HP上で取組み掲載
発信数

5回

農家以外の異業種
認定数

1社

今年度計画の達成度

90%

全体計画の達成度

90%



とくしま生物多様性活動認証制度講習会

苦勞した点と工夫した点

■ 苦勞した点

新型コロナウイルス感染拡大の時期と活動期間が重なり、感染防止対策を第一に活動したため、対面の活動が制約され生き物調査への新たな人材投入の働きかけが十分にできなかった。

■ 工夫した点

WEBを活用し、運営委員会内の情報共有を感染を気にせずにできたことと、感染拡大の懸念が高い時にはシールでアンケート収集をする等、できるだけ対面しない方法をとった。

課題

農家や事業活動に関わる人々に生物多様性の認識や重要性を向上させることで県内農地等の生物多様性を向上させるとともに、インセンティブにつながる仕組みを構築する。

目標

生物多様性活動認証を受ける農家以外の事業者の増加と、生物多様性に配慮され生産された農産物を出荷する農家が増加する。

活動内容と成果

生物多様性活動認証の講習会を定例化し、毎月第3月曜日に月1回の割合で講習会を計画開催した。また、企業が中心に実施する月1回のSDGs未来会議の勉強会に認証制度の概要や講習会の広報を行った結果、15件の農家と農家以外の異業種1事業者が生物多様性認証を認定登録した。また、認証制度の認知を向上させるために、オーガニック・エコフェスタで消費者や生産者に対面での広報を行うのと並行して、アンケートで190人に普及啓発を行った。チラシやYouTube配信、とくしま中央TV、徳島ケーブルTVで放映された。



市民調査後に生物と農業の関わりを説明

全助成期間の活動を振り返って

これまで当たり前と思われていたコミュニケーション方法が容易でなくなり、大きなストレスを感じながら慣れないZoomやWEBを取り入れていたが、2年経過し少し慣れてくると移動時間が節約できたりと利点も感じられるようになった。新型コロナウイルス感染に翻弄された3年間であったものの、見方を変えれば様々な対応を迫られながらもいい経験ができたと思える。基金の活動内容は努力の割には結果が薄いものになったと思われる。



アンケート調査の様子

〒774-0016

徳島県阿南市中林町東45-1

E-mail : sachiyoww@hotmail.co.jp

今後の展望

小松島市を中心に生き物調査の人材育成を行い、3年かけて受講生が「生物多様性リーダー」に認定できるスキルを体得した後、4年目からは身につけたスキルを活用して評価、かつ指導できる人材になってもらうことが目的である。本取組みで生物多様性の視点を持った消費者や生産者が増加することが可能であると考えられる。生物多様性リーダー講習時には認証制度をPRし、講習会を進める中で関係する事業者に働きかけていく。

